

海軍中佐 進信蔵と海軍航空機の発展

大正時代から昭和初期、日本海軍は偵察が主だった飛行機を戦闘用に改良し、また戦闘パイロットの育成を行った。

進信蔵は明治32年(1899)に葛城村上日奈古(築上町)で生まれ、大正9年(1920)海軍兵学校卒業後、まだ黎明期だった日本海軍のテストパイロットとして航空機の発展や後進の育成に寄与した。

特に航空母艦上の短い滑走路から飛行機を離陸させる射出機(カタパルト)飛行の先駆者だった。昭和8年(1933)部下を指導中に事故死した。(享年35歳)



進信蔵 海軍中佐

進 信 蔵 年 譜

- 明治 32 年 (1899) 築上郡葛城村(築上町)で出生
- 大正 6 年 (1917) 豊津中学校(現育徳館)卒業
- 大正 9 年 (1920) 海軍兵学校卒業(48期) 少尉候補生
- 大正 10 年 (1921) 少尉に進級(昇進)
- 大正 12 年 (1923) 中尉、霞ヶ浦航空隊航空術学生
- 大正 13 年 (1924) 佐世保航空隊附、翌年に大尉
- 昭和 2 年 (1927) 横須賀航空隊附
- 昭和 3 年 (1928) 純国産カタパルト運用試験に自ら志願し、成功する。
- 昭和 4 年 (1929) 一五式飛行艇で横須賀からサイパンまでの往復飛行に日本で初めて成功する。(往復 4,630 km)
- 昭和 7 年 (1932) 少佐に進級
- 昭和 8 年 (1933) 千葉県沖ノ島沖で夜間訓練中に殉職。中佐に進級。享年 35 歳

●伊藤正徳 1956年『大海軍を想う』には、進中佐は沈着真勇の青年航空士官であったと記される。



90式2号飛行艇

当時、海軍では天候に影響を受けることなく、夜間であっても海上で離着水できる航行方法の確立が急務だった。昭和8年(1933)2月8日、進中佐はその方法確立のための夜間訓練中に事故に遭い急逝した。



海軍中佐従五位勲五等進信蔵碑(日奈古)

侍従長・海軍大将 鈴木貫太郎による揮毫。



複葉式陸上飛行機と進中佐



純国産カタパルト運用試験に臨む

戦艦朝日艦上からの射出試験に臨む進中佐



飛行艇の指揮操縦を担う進中佐

昭和6年(1931)3月、伏見宮博義殿下(皇族で海軍軍人)を乗せた飛行艇の指揮操縦を行った。左端が進中佐。その右側が伏見宮殿下。



横須賀・サイパン間の往復飛行に成功

日本初の往復 4,630 km の飛行に成功し、サイパン島のガラパン棧橋で花輪を贈られる進中佐。『故進中佐写真帖』には「南洋飛行は海軍多年の宿題。その成功こそは彼(進中佐)の堅忍不拔の精神と周到な準備研究とを表徴したものだ」と記される。